

やぎさと 道徳だより



八木郷小学校
令和4年・5・30
NO、1

昨年に引き続き、八木郷小学校では毎月1回、朝自習の時間を使って 校長先生や先生方の道徳的なお話を聴いて思ったことや考えたことを文章にまとめる「傾聴作文」という取り組みを行っています。この取り組みは子どもたちに「書く力」「聴く力」といった国語力を高めることと同時に、お話を通して自らの生活を振り返り、よりよい道徳性を養うことを目的としています。

5月の「第1回傾聴作文」では、2・3年生は担任ではない先生の話（例えば2年1組で3年1組の担任が話す）、4年生～6年生は校長先生のお話を聴いて自分が感じたことを文章にまとめました。（1年生は2学期から実施）

第1回の校長先生のお話と子どもたちの感想をお知らせします。

☆☆☆ お話をきいて ☆☆☆

「誰かが働いてくれているから、暮らしが支えられている」

今日の傾聴作文は、4、5、6年生に、「誰かが働いてくれているから、私たちの暮らしが支えられている」というお話をします。

まず皆さんに考えてもらいたいことがあります。それは、「もし、日本全国のみんが一齐にお仕事も学校も休みになったら、どうなるでしょう。」ということです。ちょっと皆さん考えてみてください。

どうですか？ 休日、どこかに買い物に出かけたり、遊びに行ったりすることがあると思います。そんな休日に、そのように楽しめるのは、そこで誰かが働いてくれているからです。もしみんなが一齐に仕事を休んだら、買い物もできなければ、遊園地などにも行けません。朝・昼・晩と24時間休みなく、その時その時に誰かが働いて、私たちの暮らしを支えられているのですね。

例えば、夜中でもお店が開いていて、急に必要なものがあれば手に入る時代になりました。また、水道や電気だって夜中でも使えます。それは、遅い時間に働いてくださっている人がいるからです。そして、働いてくれている方は、仕事を通して世のため人のために役立っています。

いつか皆さんにも働く日がやってくるでしょう。自分が働いているとき、誰かを幸せにしていると考え、仕事がすてきに思えます。皆さんが、将来、どこかで誰かの暮らしを支える人になってくれることを、校長先生は期待しています。

児童の感想から

・ぼくは、このお話について「確かに。」と思ったことが2つあります。1つ目は、全員が学校・会社・仕事を休んだら、遊園地やお店に行けなくなることでした。2つ目は、夜でも水や電気が使え、働いている人がいるということでした。これから、僕が働く時が来たら、夜中でもしっかりと仕事をして、校長先生のお話に出てきた人たちのように、人のために働くことができる人になりたいです。（4年生）

・このお話は、誰かが働いているから、私たちの暮らしが支えられているというお話でした。私はいつも休まずに働いてくれている人たちがいることを知って、すごいなと思いました。私はゴールデンウィークの時、外で働いている人を見かけました。暑くても一生懸命に頑張っている人がいて、私はすごいなと思いながら見ていました。私はこれから大人になったら、皆の暮らしを支えられるようになりたいし今働いてくれている人に感謝をしたいです。（4年生）

・私は、もしいっきに全員が仕事や学校を休んだら大変だなと思いました。なぜなら全員休んでしまうと買い物に行っても何も買うことができないし、遊園地に行っても乗り物が全く動いていないからです。だから、いつも働いている人に感謝しようと思いました。大人になって、しっかりと働くことができるようになるために、授業などいろいろな事を頑張っていきたいです。（5年生）

・僕は、このお話を聴いて、人生が楽しいのは働く人のおかげだと思いました。理由は、前に遊園地に行ったときに園内を掃除している人を見かけ、その人のおかげで園内がきれいなのだと知ったからです。僕はこの出来事があってから、今まさに働いている先生やその他の人たちに感謝したいと思いました。これからも、皆のために頑張りたいです。（5年生）

・このお話の内容は、誰かが働いてくれているから電気・ガス・水道などが使え、休日などにも遊びに行くことができるということでした。私はこのお話を聴いて、人の役に立っていると思うと、仕事にもやりがいがあるし嬉しい気持ちになれることが分かり、私も人の役に立てるような仕事をしたいなと思いました。私たちの暮らしには、かげで支えてくれる人がいるから生活できるのだと知りました。（6年生）

・私はこの話を聴いて、自分の知らないところでも働いてくれている人たちがいることを知り、感謝の気持ちと嬉しい気持ちになりました。夜、水道を使うにも電気を使うにも色々な人の手がかかっていて、働くことは大変だけれど、大切だと思いました。私はまだ働いてはいないけれど、毎朝色々な人に挨拶をして、笑顔にするという仕事を頑張りたいです。（6年生）

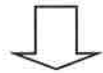
新年度を迎え2か月がたちました。子供たちは、新しい環境にも慣れ元気いっぱい学習に運動に取り組んでいる様子が見られます。

さて、八木郷小学校では「やぎさと道徳だより」を発行しています。これまでの道徳の時間が「特別の教科 道徳」として教科化され、5年目を迎えました。「特別の教科って何?」「道徳ってどんな学習をするの?」など、学校で行っている道徳の時間の様子や子供たちの考えや感想をこのお便りを使ってお伝えできればと考えています。

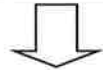
また学校だけでなくご家庭・地域ぐるみで、未来に生きる子供たちの道徳性を育んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

道徳の教科化が求められる背景

・大津のいじめ自殺等、深刻ないじめの本質的な問題解決に向け、道徳教育の充実を図ることが求められている。



・登場人物の心情のみを考える国語的な学習ではなく、人ごとでなく自分との関わりの中で気持ちを想像し、自分自身を見つめることが大切。(自分ならどうするか、生きる上で何が大切か。)



考える道徳、議論する道徳へ
<道徳の時間に大切にしていきたいこと>



- ・考える過程が大切であり、さまざまな関わりを通して自分の言葉で表現できる。
- ・自分の本音と向き合い学んだことを普段の生活で実践しようとする意欲を高める。

☆ 道徳科の内容 ☆

道徳科の内容は、小・中学校全学年、次のA～Dの4つの視点があります。一年間で、まんべんなく計画的に学習し、心の成長につなげていきます。

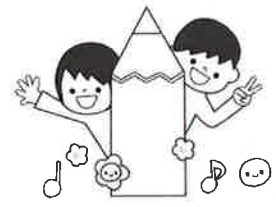
- A 主として自分自身に関すること (正直・節度・個性の伸長など)
- B 主として人との関わりに関すること (親切・感謝・礼儀・友情など)
- C 主として集団や社会との関わりに関すること (規則の尊重・勤労・家族愛・伝統の尊重など)
- D 主として生命や自然・崇高なものとの関わりに関すること (生命尊重・自然愛護)

学校教育目標

- ・進んで学習する子 (知) 主体的に学ぶ児童の育成
- ・よく考えて行動する子 (徳) 思いやりの心を行動で表すことのできる児童の育成
- ・明るく健康な子 (体) 心身ともに健康な児童の育成

八木郷小学校 道徳教育重点目標

- ・思いやりの心で互いを認め合い協力する (思いやり)
- ・心身ともに健康であるように常に自分自身を高める (健康)
- ・自ら考え、正しく判断し行動する (規範意識)



道徳の時間って、どんな時間?



道徳の時間って、どんな時間だと思いますか。ずばり、道徳は心をより豊かにするための時間です。では、どのようにして心を豊かにするのでしょうか。道徳の時間では、毎回一つの教材とじっくり向き合います。そして自分だったらこうすると考えながら、自分の心ともじっくり向き合います。さらに友達との意見の交流を通して、多様な考え(道徳的な価値)を深めていきます。自分の心と真剣に向き合い、自分の考え(心)をお互いに発表します。友達の考え(心)にもふれ、授業のまとめでは「今までの私はどうだったかな。これからはこうしたい。こういう人になりたい。」など心を豊かにし、そしてこれからの自分の生き方を見出していく、それが道徳です。

道徳便りに保護者の皆様からの心に残った出来事やエピソードを掲載したいと思います。子供たちのよい言動・最近見かけた心温まる出来事・家庭での会話から等、どんなことでも結構です。(一年中、受け付けています。)また、道徳便りに名前を掲載してもよいかの記入もお願いします。各担任まで提出して下さい。ご協力よろしくお願いします。

----- 切り取り線 -----

年 組 児童名 ()
※ 名前を掲載 (する ・ しない)

